

令和 5 年度 自立支援協議会 専門部会 計画書(案)

1. 令和 5 年度芦屋市自立支援協議会専門部会のテーマ

障がいがある人の『現在地』がわかるライフステージのフローを作成する。

2. 令和 4 年度芦屋市自立支援協議会実務者会でのテーマ・内容を決めた経緯

令和4年度実務者会では、座談会より『困りごと』『要望・ニーズ』を集めた。集約した話題から検討した結果以下の『困りごと』に着目することとなった。

- ・未就学→小～高校等→就労とライフステージが変わるごとに「支援の切れ目」を感じる。
- ・サポートファイルなど既存ツールの重要性や活用方法を周知しきれておらず、生かしきれていない。
- ・ライフステージごとの制度や相談先などの情報がわかりやすく集約されているものがない。
- ・子が現在ライフステージ上のどの地点におり、将来のためにどんな準備などしたらよいか知りたい。

上記のような『困りごと』の解消につなげるために、「実現可能性」「緊急性」「必要性」の確認/検証を経てヒアリングを行った。そこから、具体的な取り組みとして、福祉と教育を網羅したライフステージ全体を可視化できるツールを作成することとなった。

■ その目的 ■

1. いざと言うその時に困らないように、何を準備しておけばよいかわかるツールになっていること。
2. 教育側も福祉側も相互の理解を高めることにつながるようなツール。連携が容易になるようなツールであること。
3. サポートファイルなどの実際の情報の共有ツールの活用につながる可能性も考慮されていること。

3. 令和5年度 専門部会での活動指針案

- 調査：各機関、事業、行政、学校などが持つ既存のフローを調査・集約する。
- たたき台制作～チェック検証：
集めたフローを基に障がいがある人や家族が『現在地』を知るのに有効な点を考慮して作成する。
- 配布・告知：作成物の周知・活用方法について検討する。
- 評価：作成物や周知・活用方法および自己評価について実務者会に報告し、活動評価を得る。

4. スケジュール 案

4 月

